

玉城町農業再生協議会（三重県玉城町）

組織の概要

- 玉城町、JA伊勢、宮川用水土地改良区等12機関や担い手農家が構成員となり、H24年に設立。うち国産小麦産地生産性向上事業の受益農業従事者数は332名。
- 小規模農家から担い手への農地集積が急速に進む中、水田経営を維持するために、麦大豆と高収益作物（野菜）を取り入れた水田の高度利用を推進。
- JAが2機のドローンを用いて防除作業を受託することで経営規模の拡大を後押し。

生産概要

- 【作付面積】水稲：789ha、小麦：129ha、大豆：7ha（水田1,110ha）（R3）
- 水稲→小麦の輪作（2年2作）を基本とし、適地では大豆や野菜を加えた2年3作。
- 小麦は10経営体によって生産されており、大規模な経営体は40ha程度を担っている。

取組のポイント

<需要に応じた生産を徹底>

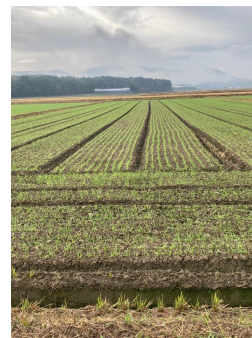
- 県内実需者に提供するニシノカオリを生産。排水対策や栽培体系の工夫（播種量、施肥体系等）により生産力の向上に取り組んでいる。

<モデル的な団地化の取組、排水対策技術の共有>

- 地域関係者、農地所有者の協力のもと、一部地域では2経営体による団地化を実施。
- 4経営体が小明渠浅耕播種に新規で取り組み、排水性改善のほか、播種深度の調整でも効果が良好だったことから、JAと連携し、町内外の関係者に技術情報を紹介予定。
- 4経営体がカットブレーカーを新規導入し、幅広型心土破碎を実施。土壌条件によっては効率的に排水改善が期待できる技術として、水稲作への影響も含めて効果検証を継続。
- 上記の技術導入した4経営体では、地域全体の単収を上回る生産性を実現。



<心土破碎作業>



<小明渠浅耕播種ほ場>

取組成果

<団地化を前提とした小麦生産の拡大>

- 小麦の作付面積が21%増加
（作付面積：129ha（R3）→157ha（R4） R7目標：142ha）
- 小麦作付けの拡大に当たって、モデル的な地域をはじめとして可能な範囲で団地化を推進（団地化面積120%、団地化率18.6ポイント増加）
（団地化面積：29.7ha（R3）→65.4ha（R4） R7目標：47.4ha）
（団地化率：23.0%（R3）→41.6%（R4） R7目標：33.3%）

<単収向上による安定した小麦生産>

- 輪作による増減はあるものの、単収についても安定的に推移
（単収（4経営体）：339kg/10a（R3）→280kg/10a（R4））
（地域単収：316kg/10a（R3）→259kg/10a（R4））

